

# 日本爬虫両棲類学会 第59回大会

2020年  
12月12日(土)～13日(日)

オンライン大会



# 日本爬虫両棲類学会第59回大会

12月12日(土)		12月13日(日)	
8:50~	開会宣言		
9:00~10:00	口頭発表(o-01-04)	9:00~10:00	口頭発表(o-19-22)
10:00~	休憩	10:00~	休憩
10:15~11:15	口頭発表(o-05-08)	10:15~11:15	口頭発表(o-23-26)
11:15	休憩	11:15	休憩
11:30~12:00	口頭発表(o-09-10)	11:30~12:00	口頭発表(o-27-28)
12:00	昼休み	12:00	昼休み
13:00~14:00	ポスター発表(奇数コアタイム)	13:00~14:00	総会
14:00	休憩	14:00	休憩
14:15~15:15	口頭発表(o-11-14)	14:10~15:10	ポスター発表(偶数コアタイム)
15:15	休憩	15:10	休憩
15:30~16:30	口頭発表(o-15-18)	15:20~16:05	口頭発表(o-29-31)
		16:10~	閉会式

※12月上旬に、Zoomの練習会を開催いたします。詳しくは日本爬虫両棲類学会のHPをご覧ください。

**会場:** Web上にて、オンライン会議アプリ「Zoom」および専用Webサイトを使用して開催

**会費:** 大会参加費 2,500円

**Zoom開設時間:** 12月12日(土) 8:30~17:00 13日(土) 8:30~17:00

不具合が発生する恐れがあるため、お早めにご入室ください。

**総会:** 12月13日(日) 13:00~

- ・ オンライン会議アプリ「Zoom」を使用し、リアルタイムで行います。
- ・ 総会は日本爬虫両棲類学会の会員の方のみが対象です。
- ・ Zoomの使用マニュアル、テスト接続は口頭発表と共通です。

大会委員長 : 岡本卓

大会実行委員 : 池田忠広・城野哲平・栗田隆気・栗山武夫・笹井隆秀・島田知彦  
鈴木大・高橋亮雄・戸田守・富永篤・吉川夏彦

表紙デザイン : 村西美穂

**※当日のお問合わせ 第59回大会実行委員長 岡本卓 [hsj59@herpetolgy.jp](mailto:hsj59@herpetolgy.jp)**

# 発表に関する要項

## ① 口頭発表をされる方

オンライン会議アプリ「Zoom」を使用し、12月12～13日にリアルタイムで行います。

- ・ Zoomの画面共有機能を使ってスライドと音声で発表してください。
- ・ 発表データはPowerpoint や PDF等でスライドをご用意ください。
- ・ 発表時間は12分、質疑応答は2分30秒です。時間厳守でお願いします。
- ・ 視聴される方の通信速度によっては動画などを見づらい場合があります。  
動画のサイズを小さくする、アニメーションの使用を控えるなどの工夫をお願いします。

※オンライン会議アプリ「Zoom」について

参加登録された方に、今大会での使用マニュアルを配布します。

※当日のトラブルの予防のため、12月上旬に、Zoomのテスト接続の期間を設けます。

口頭発表される方は少なくとも一度は必ずご参加ください。

視聴のみの方でも、Zoomの使用経験が少ない方はぜひご参加ください。

## ② ポスター発表をされる方

専用Webサイトを使用し、オンデマンド方式で行います。

### 掲示方式・期間

- ・ 参加登録者のみアクセス可能な専用Webサイトを使用します。
- ・ 発表者は事前(11月19日 〆切)に発表ポスター(PDF)をアップロードしてください。
- ・ ポスターPDFは、ダウンロード・印刷ができないよう制限されます。
- ・ 各発表ポスターに専用のウェブ掲示板が付属し、これを用いて質疑応答を実施します。
- ・ 会期の1週間程度前から、発表ポスターの閲覧と掲示板での質疑応答が可能です。

### ポスター様式

- ・ 便宜上「ポスター」と呼びますが、ページ数・用紙サイズは自由です。
- ・ ウェブブラウザで表示するため、A4横向きのスライド形式を推奨します。
- ・ ファイルサイズの上限は20MBです。
- ・ PDFへの動画・音声の埋め込みは、閲覧者側の仕様により作動しないことがあります。

### コアタイム

- ・ ポスター番号が奇数の方は12月12日(土)、偶数の方は13日(日)がコアタイムとなります。
- ・ コアタイム中は、掲示板上で質疑に回答してください。

# 講演要旨の作成と提出に関するお願い

日本爬虫両棲類学会 和文誌編集委員会

## ◆はじめに

爬虫両棲類学会大会の講演者(口頭発表、ポスター発表)は、必ず講演要旨を提出してください。それらの要旨は爬虫両棲類学会報第2021巻1号に掲載されます。講演要旨は、以下の要項にしたがって作成してください。編集作業の負担軽減のため、フォーマットの厳守にご協力下さい。

## ◆講演要旨作成について

次頁の「講演要旨執筆要項」に沿って、原稿を作成してください。発表者には講演要旨の執筆を依頼するメールをお送りしますが、そこに添付されている「要旨フォーム temp.docx」を基に作成していただくと簡便です。なお、爬虫両棲類学会報は和文を原則としていますので、外国人の方が主発表者の場合でも、日本人が共同研究者に入っている場合は和文の要旨をご用意ください。

## ◆提出方法について

講演要旨を添付ファイルとしてお送りください。ファイルは、使用ソフトの種類に関わらず、MSワードで読み込める形式(拡張子docまたはdocx)にしてください。MSワード形式のファイルを作れない場合は、メールの本文に講演要旨を貼り付けてください。その場合は、イタリック体や特殊文字が利用できませんので、それらを別途指示してください

原稿の提出締切は12/11(金)AM10:00、宛先はhsjabst@gmail.comです。添付するファイル名は、講演番号(\*)と第1発表者氏名にしてください(\* 申込時の「参加登録番号」とは異なりますのでご注意ください! プログラムに掲載される、oまたはPで始まる番号です)。英数字は半角大文字にしてください(例:P-01田代やも郎.docx)。

## 講演要旨執筆要項

講演要旨は以下の順番で構成する。

- 講演題目(和文)
- 発表者氏名及び発表者所属(和文)
- 講演題目(英文)
- 発表者氏名(英文)
- 本文(和文)本文の字数は660字以内、英文の場合は200 words以内。

### 注意点

#### 1. 講演題目(和文)

アラビア数字、アルファベットのみ半角とする。

#### 2. 発表者氏名及び発表者所属(和文)

発表者が二人以上の場合「・(なかぐろ)」で繋ぐ。発表者の後の()内に所属する機関、会社、団体等の略称、あるいは在住する自治体名を入れる。同じ所属の発表者が連続する場合には、同一所属の最後の発表者にのみ所属を付ける。

#### 3. 講演題目(英文)

最初の語や固有名詞などの頭文字のみ半角大文字とし、あとは半角小文字とする。属や種、亜種の学名は斜体(イタリック体)表記とする。

#### 4. 発表者氏名(英文)

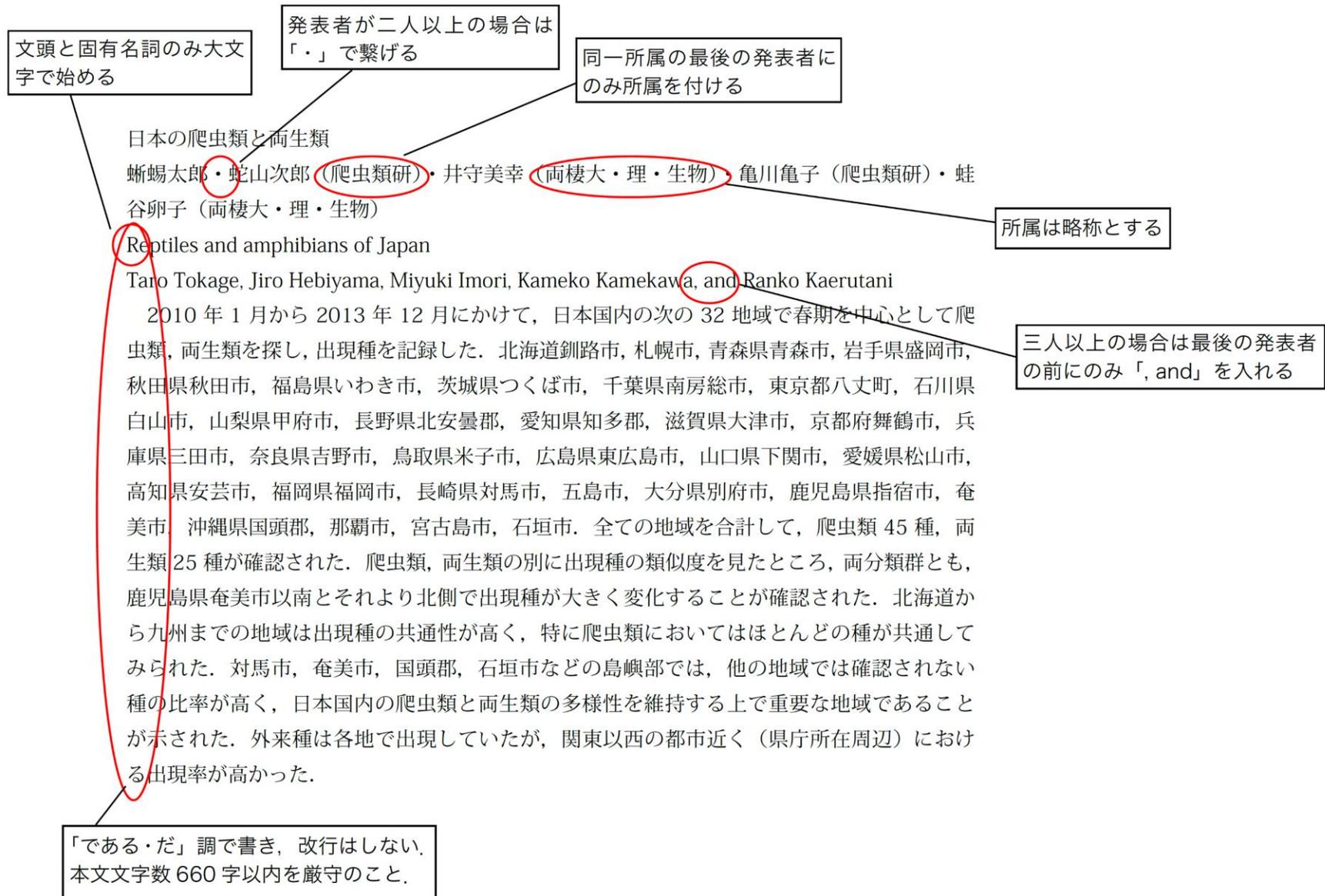
発表者が二人の場合は“and”で繋ぎ、その前に「,」は付けない。発表者が三人以上の場合「,」で繋げ、最後の発表者前に「, and」を入れる。

#### 5. その他

体裁等はそのまま印刷されるので、余計な情報(英文における所属機関等の情報)は入れない。和文と英文で、発表者の名前や順番が同じであることを確認する。本文中は改行しない。図表や引用文献は入れない。

※詳細については、次項の見本を参照のこと。

## 講演要旨原稿の見本



## 【重要！】

講演要旨の上限660字は「単語数」ではなく、「文字数(スペースを含める)」です。MS Wordの入力画面の左下には「文字数」を称した数字が常に表記されていますが、実はこれは「単語数」ですので、使用しないでください。正しい文字数は、Wordの文字カウント機能を使用して計算してください。

※文字カウント機能の操作方法については、Google等の検索エンジンで「MSWord」「文字カウント」等と入力すると参照することができます。

Abstract: Name and affiliation of the presenter(s) are necessary. Main text of the abstract should be less than 200 words. Please submit the abstract of your presentation as a MS word file to the address: [hsjabst@gmail.com](mailto:hsjabst@gmail.com) (Note it is different from the address of the organizing committee). The deadline of abstract submission is am 10:00(JST) Dec 11 (FRI).

# 日本爬虫両棲類学会第59回大会プログラム

12月12日(土曜日)

開始	番号	発表タイトル	発表者氏名・所属	座長
8:50		開会宣言		
9:00	o-01	宮古島におけるミヤコトカゲの生息状況と潮間帯利用	○笹井隆秀(美ら島財団/琉大・院・理工)・山本拓海・安里 瞳・宮崎真結(琉大・院・理工)・戸田 守(琉大・熱生研)	栗山 武夫
9:15	o-02	ミヤコカナヘビの生息地内での分布と植生の関係	○安里 瞳(琉大・院・理工)・戸田 守(琉大・熱生研)	
9:30	o-03	ニホンカナヘビおよびヒガシニホトカゲの胚発生過程	○奥山健太郎・佐久間 夢(東農大・院農・バイオセラピー)・佐々木 剛(東農大・農・生物資源)	
9:45	o-04	琉球列島における緯度による低温耐性の変異:単為生殖ヤモリと両性生殖ヤモリの比較	○Shan-Dar Tao (琉大・院・理工)・戸田 守(琉大・熱生研)	
10:00		休憩		
10:15	o-05	イシヅチサンショウウオ種内の遺伝的多様性に関する研究	○金森さりい(京大・地環)・松井正文(京大・人間・環境)・田辺真吾(京都市)・西川完途(京大・地環)	鈴木 大
10:30	o-06	ヒバサンショウウオの遺伝的多様性	○富森祐輔(京大・地環)・松井正文(京大・人間・環境)・大川博志(広島学院中・高)・西川完途(京大・地環)	
10:45	o-07	東北地方南部飯豊山系のバンダイハコネサンショウウオの遺伝構造	吉川夏彦(慶應大・生物)	
11:00	o-08	日本産有尾類全種のDNAバーコーディング領域の探索	○許斐有希(京大・地環)・佐藤行人・和智仲是(琉大・戦略セ)・松井正文(京大・人間・環境)・富永篤(琉大・教育)・吉川夏彦(慶應大・生物)・西川完途(京大・人間・環境)・戸田 守(琉大・熱生研)	
11:15		休憩		
11:30	o-09	長野県下におけるアカハライモリ2系統の境界域で観察される交配行動の変異と生殖隔離について	○川合 恵(愛教大・理科・生物)・富永 篤(琉大・教育)・島田知彦(愛教大・理科・生物)	持田 浩治
11:45	o-10	イボイモリの頭骨における地理的変異	○尾崎洸太郎・西川完途・松井正文(京大・人間・環境)・富永 篤(琉大・教育)	
12:00		昼休み		
13:00		ポスター		
14:00		休憩		
14:15	o-11	ブラーミニメクラヘビにおけるmtDNAヘテロプラズミー現象の実証	大岩寛之・神林千晶・掛橋竜祐(長浜バイオ大・バイオサイエンス)・Gulab Khedkar (Dr BA マラスワード大・生物多様性)・倉林敦(長浜バイオ大・バイオサイエンス)	木寺 法子
14:30	o-12	茨城県におけるヘビ類の資源利用様式の変化-25年前と比較して	○澤田聖人(筑波大・生命・資源)・門脇正史(筑波大・生命)	
14:45	o-13	ニホンマムシにおける化学刺激と温度刺激の餌認知への影響	○浜中京介(京大・理・動物)・森 哲(京大・理・動物)	
15:00	o-14	更新世後期の氷期サイクルに注目したニホンマムシの系統地理パターン	○栗田隆気(千葉中央博)・竹内寛彦(日大・生物資源)・吉川夏彦(慶應大・生物)・江頭幸士郎(北九州市立博)	
15:15		休憩		
15:30	o-15	ナガレヒキガエル( <i>Bufo torrenticola</i> )の発生段階図表	○田中花音(京大・総)・西川完途(京大・地環/京大・人間・環境)	島田 知彦
15:45	o-16	沖縄島北部における外来種シロアゴガエルの食性	○中村泰之(琉大・教育/琉大・風樹館/島嶼研)・富永 篤(琉大・教育)	
16:00	o-17	沖縄島に生息するウシガエルの食性	○富永 篤(琉大・教育)・中村泰之(琉大・教育/琉大・風樹館/島嶼研)	
16:15	o-18	水田環境におけるアライグマの広域的な両生類個体群への影響評価	○浅妻祐一郎・高木 俊・栗山武夫(兵庫県立大)	

# 日本爬虫両棲類学会第59回大会プログラム

12月13日(日曜日)

開始	番号	発表タイトル	発表者氏名・所属	座長	
9:00	o-19	ミトコンドリア遺伝子を用いた西表島周辺海域に生息するアオウミガメの分子系統解析	○鈴木 大・阿部 優・宮澤 萌(東海大・生物)・粟村観月(東海大・海洋)・水谷 晃・井上太之(東海大・沖縄)・北 夕紀(東海大・生物)・亀崎直樹(岡山理大・生地)・河野裕美(東海大・沖縄)	笹井隆秀	
9:15	o-20	伊勢湾周辺域と瀬戸内海島嶼域における外部形態とmtDNAから見たニホンインガメとクサガメの交雑状況	○松田悠之介(三重大・生物資源)・太田英利(兵庫県立大・自然研/人博)・河村功一(三重大・生物資源)		
9:30	o-21	瀬戸内海島嶼におけるミシシッピアカミミガメの侵入	○蕪木 駿・亀崎直樹(岡理大・生地)		
9:45	o-22	ウミガメが産卵する砂浜の環境特性:薩摩半島南部から八重山諸島までの調査データ	○吉野 諒・亀崎直樹(岡理大・生地)		
10:00	休憩				
10:15	o-23	岐阜県で見つかったヒガシヒダサンショウウオ	○向井貴彦(岐阜大・地域)・高木雅紀(大垣北高)	戸田守	
10:30	o-24	石川県白山山系におけるクロサンショウウオ卵囊の色彩変異	○江口健斗・上野裕介(石川県立大・生物資源環境・環境科学)		
10:45	o-25	サンショウウオ属の胴椎形態の種間比較	○原壮大朗・松井正文(京大・人間・環境)・見澤康充(建設環境研)・西川完途(京大・人間・環境)		
11:00	o-26	産卵場・幼生の生息場の分布からみたふるさとヒダサンショウウオの保全	○三宅遥香(鶯谷高)・三宅恵子(名古屋大)・見澤康充(建設環境研)		
11:15	休憩				
11:30	o-27	タゴガエルとネバタゴガエルの分布境界にみられる遺伝的、音響学的、形態学的な実態の解明	○三田真紀(愛教大・理科・生物)・江頭幸士郎(北九州市立博)・島田知彦(愛教大・理科・生物)	吉川夏彦	
11:45	o-28	ミトコンドリアDNAと核DNAからみた日本・台湾産ヌマガエル類の遺伝的集団構造と交雑帯の位置	○和智仲是(琉大・戦略セ)・富永 篤(琉大・教育)・Chi-Shiun Wu(Chinese Culture University)・城野哲平(広島修道大・人間環境)・佐藤行人(琉大・戦略セ)・上原みなみ(琉大)・戸田 守(琉大・熱生研)		
12:00	昼休み				
13:00	総会				
14:00	休憩				
14:10	ポスター				
15:10	休憩				
15:20	o-29	Two new species of <i>Megophrys</i> Kuhl & Van Hasselt (Amphibia: Megophryidae) from Sumatra	○Misbahul Munir (Grad. School Global Environmental Studies, Kyoto Univ), Kanto Nishikawa (Grad. School Global Environmental Studies & Grad. School Human and Environmental Studies, Kyoto Univ.), Amir Hamidy (Muss. Zoologicum Bogoriense, Research Center for Biology, Indonesian Institute of Sciences), Eric N Smith (Dept. Biology, Univ. Texas at Arlington)	倉林敦	
15:35	o-30	形態及びSNP解析に基づくタカネチヨボグチガエルの分類学的再検討	○福山伊吹・松井正文(京大・人間・環境)・江頭幸士郎(北九州市立博)・ヤジッド・ホスマン(サラワク森林局)・西川完途(京大・人間・環境)		
15:50	o-31	マレー半島におけるキグチガエル属 <i>Chalcorana</i> の種多様性の解明	○鈴木悠理・松井正文(京大・人間・環境)・Daicus M. Belabut (Univ. Malaya)・Norhayati Ahmad (National University of Malaysia)・西川完途(京大・人間・環境)		
16:10	閉会式				

## ポスター発表プログラム

奇数コアタイム：12月12日 13:00－14:00、偶数コアタイム：12月13日 14:10－15:10

番号	発表タイトル(和文)	発表者氏名・所属
P-01	滋賀県及び近県におけるニホンアマガエルの遺伝系統	○臼井一将・水戸直・齊藤修(長浜バイオ大・バイオサイエンス)
P-02	ネバタゴガエルの体サイズにみられる地理的クラインと性成熟個体の年齢構成について	○大橋朋洋・島田知彦(愛教大・理科・生物)
P-03	鳥取砂丘におけるカエル群集について	千葉駿(鳥取大・農学)
P-04	ツチガエル幼生の低温下での長期飼育結果:幼生形質に対する水温の効果	岩浪創(都立大・生命)
P-05	ツチガエル・サダガエル幼生の皮膚腺の密度にみられる地理的・季節的変異について	○山本海成・島田知彦(愛教大・理科・生物)
P-06	ニホンアマガエルにおける動かない餌および餌のにおいに対する反応	○大竹康智・森哲(京大・理・動物)
P-07	魔法の色。赤色光刺激がオタマジャクシの鋭敏化に与える影響	○持田浩治(京大・野生研)・高橋宏司(慶應大・生物)
P-08	日本産止水産卵性 <i>Hynobius</i> 属の孵化直後幼生の外部形態と発生段階の比較	○見澤康充(建設環境研)・松井正文(京大・院・人間・環境)
P-09	山口県萩市産アブサンショウウオ <i>Hynobius abuensis</i> 幼生にみられる形態変異	○川原康寛(萩博物館)・見澤康充(建設環境研究所)
P-10	岐阜県大垣市に生息するマホロバサンショウウオの生活史の解明	○古田晏寿・井上歩実・竹内恒太・太田悠梧・高木雅紀(大垣北高・自然科学部)
P-11	アカハライモリのメスによる尾振り行動の発見とその機能についての考察	○伊藤真(京大・学際融合)・五十嵐萌詩(京大・人間・環境)・富永篤(琉大・教育)・西川完途(京大・地環)
P-12	ヘリグロヒメカゲ集團の分類学的地位	○牧野智久・中野隆文・岡本卓・疋田努(京大・理・動物)
P-13	孵卵実験によるミナミヤモリ九州個体群およびヤクヤモリの性決定様式の解明	○岡本康汰(琉大・院・理工)・城野哲平(広島修道大・人環)・戸田守(琉大・熱生研)
P-14	アノールトカゲにおける尾椎の機能形態学的研究	○佐野瑞穂(福井県大・生物資源)・河部壮一郎(福井県大・恐竜研/福井恐竜博)
P-15	シマヘビの糞分析による食性調査	○白木麗・向井貴彦(岐阜大・地域)

## ポスター発表プログラム

奇数コアタイム：12月12日 13:00－14:00、偶数コアタイム：12月13日 14:10－15:10

番号	発表タイトル(和文)	発表者氏名・所属
P-16	ウミガメを採餌するアカマタの多様な社会行動	○松本和将・森 哲(京大・理・動物)
P-17	魚卵専食者イイジマウミヘビは個体レベルで異なる餌選好性を示すか？	○山本拓海(琉大・院・理工)・戸田 守(琉大・熱生研)
P-18	マダガスカル産アリのヘビに対する新奇で特異な対捕食者戦略	○城野哲平(広島修道大・人環)・児島庸介(東邦大・理)・水野尊文(シーサンパンナ熱帯植物園)
P-19	ボルネオ島ムル国立公園とその周辺における爬虫両生類の初記録報告	○福山亮部(京大・理・生物)・福山伊吹(京大・人間・環境)・栗田隆気(千葉中央博)・児島庸介(東邦大・理・生物)・ヤジッド=ホスマン(サラワク森林局)・野田叡寛(京大・理・生物)・西川完途(京大・地環)
P-20	沖縄島南部の近代遺跡(首里真珠道跡)より発見されたクサガメ(カメ目イシガメ科)の骨遺存体とその考古動物学的意義	○高橋亮雄・嘉手納安顕(岡理大・生地)
P-21	ニホンイシガメが選好する水深	○廣井裕子(岡理大・生地)・鳥井正男(須磨水・ボラ)・梶原葉奈(岡理大・生地)・亀崎直樹(岡理大・生地)
P-22	岡山県における淡水ガメについて	○大橋理世・砂場千奈・藤林真・西本宙世・亀崎直樹(岡理大・生地)
P-23	愛媛県におけるカミツキガメ対応状況(2018-2020)	村上 裕(愛媛県生物多様性センター)
P-24	市街地におけるミシシippアカミミガメの繁殖	○石堂陽一・橋本宜幸(岡理大・生地)・裾分由美子(倉敷市)・亀崎直樹(岡理大・生地)
P-25	特定外来生物グリーンアノールの忌避に有効な音声の探索	○志甫拓巳・岩井紀子(農工大・農)
P-26	沖縄島におけるグリーンアノール分布の現状	○中川雅允・菅原 涼(八千代エンジニアリング(株))・河内紀浩((株)島嶼生物研究所)
P-27	宮崎県日向市に定着したスウィンホーキノボリトカゲの現状	○今竹翔一郎(宮崎大・院・医獣医)・今泉法子・田中万緒・岡亮太郎・脇谷晶一・保田昌宏(宮崎大・農・獣医)・岩本俊孝(宮崎野生動物研究会)
P-28	福岡県で最近記録された外来爬虫両生類について	○江頭幸士郎(北九州市立博)

## 参加者名簿

	氏名	氏名(英字)	発表
1	秋田耕佑	K. Akita	
2	秋谷亮太	R. Akiya	
3	青木 玄	G. Aoki	
4	新井智宏	T. ARAI	
5	安里 瞳	H. Asato	o-02
6	浅妻祐一郎	Y. Asazuma	o-18
7	千葉 駿	H. Chiba	P-03
8	千葉 稔	M. Chiba	
9	江口健斗	K. Eguchi	o-24
10	遠藤聡子	S. Endo	
11	江頭幸士郎	K. Eto	P-28
12	藤井亮介	R. Fujii	
13	藤島幹汰	K. Fujishima	
14	藤田宏之	H. Fujita	
15	藤田浩輔	K. Fujita	

	氏名	氏名(英字)	発表
16	藤田大空	O. Fujita	
17	藤田亮太	R. Fujita	
18	福田将矢	M. Fukuda	
19	福谷和美	K. Fukutani	
20	福山伊吹	I. Fukuyama	o-30
21	福山欣司	K. Fukuyama	
22	福山亮部	R. Fukuyama	P-19
23	船藤 史	A. Funato	
24	古田晏寿	A. Furuta	P-10
25	袴田将仁	M. Hakamata	
26	濱田竜輔	R. Hamada	
27	浜中京介	K. Hamanaka	o-13
28	原壮大朗	S.Hara	0-25
29	林光 武	T.Hayashi	
30	日比野公俊	M.Hibino	
31	檜垣友哉	Y.Higaki	
32	疋田 努	T.Hikida	
33	平田智子	S.Hirata	
34	廣井裕子	Y.Hiroi	P-21
35	細江隼平	J.Hosoe	
36	市岡幸雄	Y.Ichioka	
37	伊地知寛温	T.Ijichi	
38	今竹翔一朗	S.Imatake	P-27
39	井ノ上綾音	A.Inoue	
40	井上歩実	A.Inoue	

	氏名	氏名(英字)	発表
41	石場ゆり	Y.Ishiba	
42	石堂陽一	Y.Ishido	P-24
43	石原 孝	T.Ishihara	
44	伊藤 響	H.Ito	
45	伊藤 真	M.Ito	P-11
46	伊藤柚里	Y.Ito	
47	岩井賢一	K.Iwai	
48	岩井紀子	N.Iwai	
49	岩浪 創	T.Iwanami	P-04
50	岩尾 一	H.Iwao	
51	岩田貴之	T.Iwata	
52	伊與田翔太	S.Iyoda	
53	城野哲平	T.Jono	P-18
54	蕪木 駿	S.Kaburagi	o-21
55	門脇正史	S.Kadowaki	
56	加賀山翔一	S.Kagayama	
57	鶏内博之	H. Kaichi	
58	釜坂 綾	R.Kamasaka	
59	神林千晶	C.Kambayashi	
60	亀崎直樹	N.Kamezaki	
61	上村 亮	R.Kamimura	
62	金森さりい	S.Kanamori	o-05
63	金子賢太郎	K.Kaneko	
64	片岡友美	T.Kataoka	
65	川原康寛	Y.Kawahara	P-09

	氏名	氏名(英字)	発表
66	川合 恵	M.Kawai	o-09
67	河村功一	K.Kawamura	
68	河津結実	Y.Kawazu	
69	木寺法子	N.Kidera	
70	岸村晋作	S.Kishimura	
71	北野 聡	S. Kitano	
72	小林清重	K.Kobayashi	
73	小林幸平	K.Kobayashi	
74	小泉有希	Y.Koizumi	
75	児島庸介	Y.Kojima	
76	近藤めぐみ	M.Kondou	
77	許斐有希	K.Yuuki	o-08
78	小関翔馬	S.Koseki	
79	越河暁洋	A.Koshikawa	
80	倉林 敦	A.Kurabayashi	
81	栗原沙織	S.Kurihara	
82	栗田隆気	T.Kurita	o-14
83	桑名知碧	C.Kuwana	
84	八谷和彦	K.Machiya	
85	牧 陸人	R.Maki	
86	牧野智久	T.Makino	P-12
87	丸山一子	K.maruyama	
88	田上正隆	M.Tagami	
89	松田悠之介	Y.Matsuda	o-20
90	松田裕太	Y.Matsuda	

	氏名	氏名(英字)	発表
91	松本和将	K.Matsumoto	P-16
92	松本涼子	R.Matsumoto	
93	松本貴至	T.Matsumoto	
94	松島野枝	N.Matsushima	
95	三根佳奈子	K.Mine	
96	見澤康充	Y.Misawa	P-08
97	Misbahul Munir	M. Munir	o-29
98	三宅遥香	H.Miyake	o-26
99	三宅恵子	K.Miyake	
100	宮崎真結	M.Miyazaki	
101	持田浩治	K.Mochida	P-07
102	森 哲	A.Mori	
103	森ことの	K.Mori	
104	森口 一	H.Moriguchi	
105	森井雅大	M.Morii	
106	森井椋太	R.Morii	
107	森分泰三郎	Y.Moriwake	
108	向井貴彦	T.Mukai	o-23
109	村上 裕	H.Murakami	P-23
110	永井智也	T.Nagai	
111	長崎哲新	T.Nagasaki	
112	中川雅允	M.Nakagawa	P-26
113	中村 響	H.Nakamura	
114	中村泰之	Y.Nakamura	o-16
115	中野智保	C.Nakano	

	氏名	氏名(英字)	発表
116	中野紘一	K.nakano	
117	西川完途	K.Nishikawa	
118	野田叡寛	A.Noda	
119	沼澤青葉	A.Numazawa	
120	小幡成輝	N.Obata	
121	越智慎平	S.Ochi	
122	大橋理世	R.Ohashi	P-22
123	大橋朋洋	T.Ohashi	P-02
124	大淵希郷	M.Ohbuchi	
125	大竹康智	Y.Ohtake	P-06
126	大岩寛之	H.Oiwa	o-11
127	岡田有羽	Y.Okada	
128	岡田友太	Y.Okada	
129	岡本康汰	K.Okamoto	P-13
130	岡本 卓	T.Okamoto	
131	大河内勇	I.Okochi	
132	奥山健太郎	K.Okuyama	o-03
133	恩田 壮	So Onda	
134	大西泰歩	Y.Onishi	
135	大田和朋紀	T.Ootawa	
136	大杉奉功	T.Osugi	
137	太田英利	H.Ota	
138	太田悠梧	Y.Ota	
139	尾崎洸太郎	K.Ozaki	o-10
140	尾崎 俊	S.Ozaki	

	氏名	氏名(英字)	発表
141	齊藤 修	O.Saitoh	
142	坂部あい	A.Sakabe	
143	坂本真理子	M.Sakamoto	
144	坂田修一	S.Sakata	
145	真山春菜	S. Haruna	
146	三田真紀	M.Sanda	o-27
147	佐野瑞穂	M.Sano	P-14
148	猿田朝久	T.Saruta	
149	笹井隆秀	T.Sasai	o-01
150	佐々木英代	F.Sasaki	
151	佐藤広康	H.Sato	
152	佐藤真由	M.Sato	
153	澤田聖人	K.Sawada	o-12
154	勢井慎太郎	S.Sei	
155	千郷由依	Y.Sengo	
156	沈 彦鵬	Y.Shen	
157	志甫拓巳	T.Shiho	P-25
158	島田知彦	T.Shimada	
159	清水 智	S.Satoshi	
160	篠塚 理	M.Shinozuka	
161	白木 麗	R.Shiraki	P-15
162	城間大輝	H.Shiroma	
163	添田晴日	H.Soeda	
164	末本貴大	S.Takahiro	
165	鈴木 大	D.Suzuki	o-19

	氏名	氏名(英字)	発表
166	鈴木悠理	Y.Suzuki	o-31
167	田口勇輝	Y.Taguchi	
168	高木雅紀	M.Takagi	
169	高橋亮雄	A.Takahashi	P-20
170	高橋洋生	H.Takahashi	
171	高橋泰美	Y.Takahashi	
172	高田賢人	K.Takata	
173	竹田正義	M.Takeda	
174	竹中 踐	S.Takenaka	
175	竹内恒太	K.Takeuchi	
176	田中花音	K.Tanaka	o-15
177	田中-上野寛子	T.Tanaka- Ueno	
178	Shan-Dar Tao	S.Tao	o-04
179	寺本匡寛	T.Teramoto	
180	戸田守	M.Toda	
181	戸田光彦	M.Toda	
182	戸金 大	D.Togane	
183	富樫忠志	T.Togashi	
184	徳田龍弘	T.Tokuda	
185	富森祐輔	Y.Tomimori	o-06
186	富永 篤	A.Tominaga	o-17
187	当山昌直	M.Toyama	
188	宇野洋平	Y.Uno	
189	臼井一将	K.Usui	P-01
190	宇都幸那	Y.Uto	

	氏名	氏名(英字)	発表
191	和智仲是	N.Wachi	o-28
192	渡辺 潔	K.Watanabe	
193	渡部侑果	Y.Watanabe	
194	山本海成	K.Yamamoto	P-05
195	山上将史	M.Yamagami	
196	山本拓海	T.Yamamoto	P-17
197	安田晶南	S.Yasuda	
198	休場聖美	K.Yasumiba	
199	叶 林芸	L.Ye	
200	頼本ちひろ	C.Yorimoto	
201	吉川夏彦	N.Yoshikawa	o-07
202	吉村友里	Y.Yoshimura	
203	吉野 諒	R.Yoshino	o-22